

# 管理者・職員の 新型コロナウイルス感染に 備える

(静岡県)

社会福祉法人遠州仏教積善会

救護施設 慈照園

園長 左右田雅子



# 発表内容

1. 慈照園の概要
2. コロナウイルス感染症拡大予防策
  - ① 検温・消毒
  - ② 飛沫対策（パーテーション設置）
  - ③ 行事の中止・縮小・形態変更
  - ④ 業務継続計画（BCP）策定
  - ⑤ 対応訓練（2か月に1回）
3. 園長家族の感染への対応
4. 役に立ったこと
5. 課題
6. まとめ

※写真の掲載にあたり、ご本人の了承を得ています。

# 1. 救護施設 慈照園の概要

- ▶ 浜松駅から西1.6km、住宅街の中にある施設です。
- ▶ 定員50名。
- ▶ 現員47名。(R3.11.1現在)
- ▶ うち男性32名、女性15名。
- ▶ 平均年齢53歳。(27~66歳)
- ▶ 平均在園期間4.7年
- ▶ 精神障害のみ 35名
- ▶ 知的障害のみ 1名
- ▶ 身体障害のみ 0名
- ▶ 重複障害 10名
- ▶ その他 1名
- ▶ 職員25名(施設長1、事務員1、指導員6、介護職員13、看護師2、栄養士1、調理員委託、介助員非常勤1)
- ▶ 設置者・経営主体は社会福祉法人遠州仏教積善会(一法人一施設)
- ▶ 保護施設通所事業、居宅生活訓練事業実施。



## 2. コロナウイルス感染症拡大防止策

- ① 毎食前利用者・外来者の検温と手指消毒
- ② 飛沫対策（手作りパーテーション設置）
- ③ 行事・外出・面会の中止・縮小・形態変更、
- ④ 事業継続計画（BCP）策定
- ⑤ 研修と対応訓練（2か月に1回）
- ⑥ ワクチン接種（令和3年7月）

## 2. コロナウイルス感染症拡大防止策

### ① 毎食前・外来者（非接触型検温器・自動消毒器）



## 2. コロナウイルス感染症拡大防止策 ② 飛沫予防（手作りパーテーション）

- 食堂



- 通院用公用車



- 相談室、面接室



## 2. コロナウイルス感染症拡大防止策

### ③ 行事・外出・面会の 中止・縮小・形態変更

- ▶ ビデオ通話による面会
- ▶ (例) 密を避けるため、観音供養を2会場とし、ライブ中継(無線)

会場①



会場②

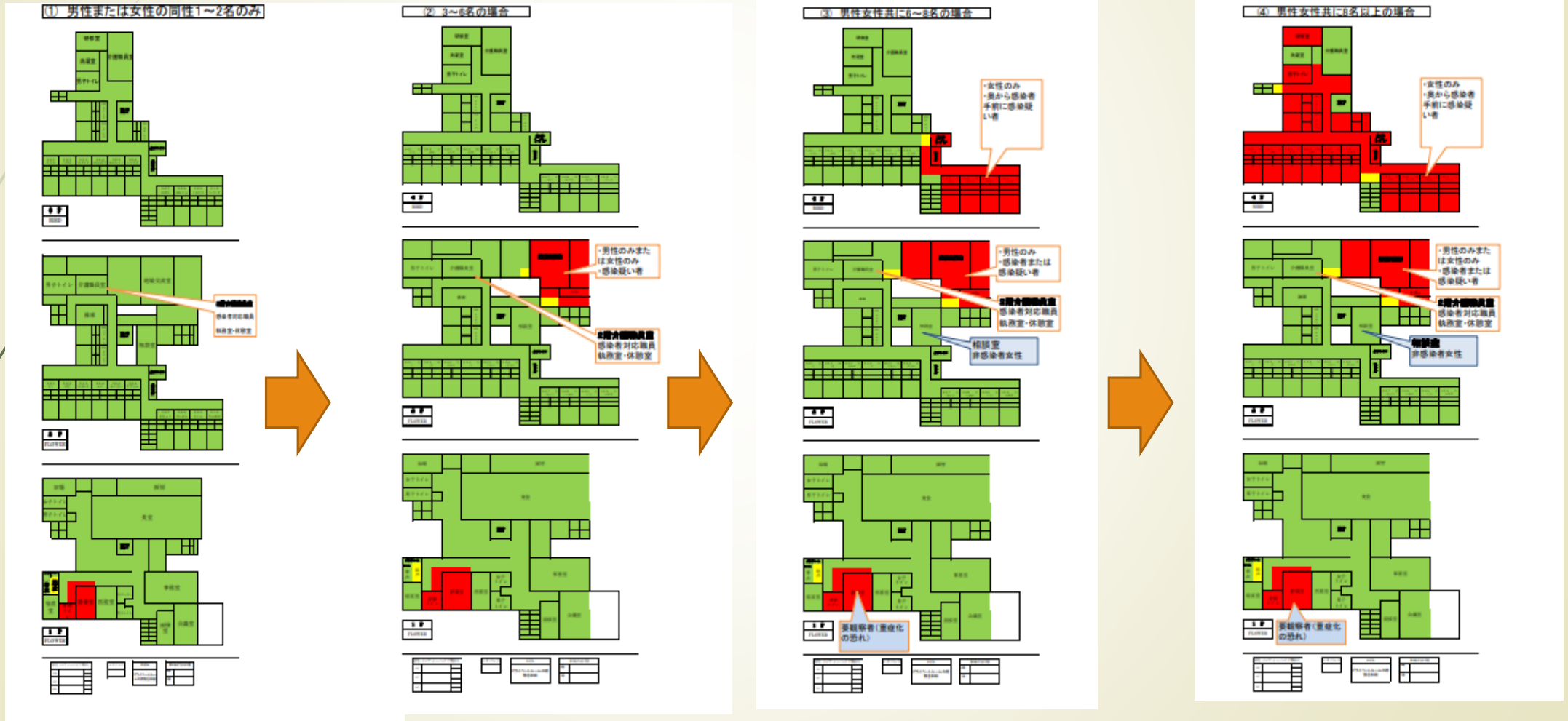


## 2. コロナウイルス感染症拡大防止策

### ④ 業務継続計画（BCP）策定

- ▶ 既存の新型インフルエンザに対する業務継続計画を見直し、新型コロナウイルスにも対応できるように変更。
- ▶ ゾーニングシミュレーション等は、新規策定。
- ▶ 全国救護施設協議会より提供された、みなと寮のBCP及び村山苑と神ヶ谷園の実践報告が大変参考になった。

# ゾーニングシミュレーション



## 2. コロナウイルス感染症拡大防止策

### ⑤ 対応訓練 (令和3年1・3・5・7・9月)

#### ▶ レッドゾーン設定



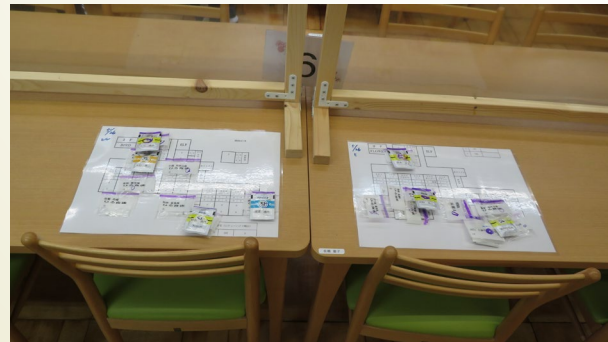
## 2. コロナウイルス感染症拡大防止策

### ⑤ 対応訓練(1・3・5・7・9月)

- 食事は、使い捨て容器にて、各居室へ配食



- 配薬の工夫



衛生用品の準備



# 3. 園長家族の感染への対応

## ①経過

日付	内 容
8月17日	園長は家族Aと朝接触の無いまま出勤。園長帰宅後、Aより未明に発熱したことを知る。昼に解熱するも夕刻再度発熱。 かかりつけ医に電話連絡、夜間救急室受診の指示あり、夜間救急室受診、新型コロナウイルス抗原検査陽性判明。LINE職員グループにて、職員に周知。
8月18日	園長は出勤自粛（有給休暇取得）。Zoomによる職員引継ぎ参加開始（以後平日朝夕）。利用者への説明。 家族Aが保健所PCR検査実施。
8月19日	Aの保健所PCR検査陽性判明。本人は発症日17日より10日間の自宅待機となる。園長はじめ家族は、濃厚接触者とされたが感染者多数のため無症状者はPCR検査対象にならず、判定日の19日より14日間の自宅待機となる。
8月20日	Zoomにより、職員会議参加。
8月21日	職員のPCR検査実施。（民間業者により施設負担）
8月24日	職員のPCR検査結果、全員陰性。
8月30日	Zoomにより、研修リハーサル参加。
9月1日	Zoomにより、誕生会・リーダー会議参加。
9月2日	園長の自宅待機終了。（有給休暇12日取得）
9月3日	園長職場復帰。

### 3. 園長家族の感染への対応

#### ②管理業務への対応

内 容	対 応
報告連絡相談指示	引継ぎ参加（朝夕Zoom利用）
	クラウド型業務用ソフトの活用
	随時、電話による連絡
	Eメールによる連絡
会議（施設内・外）、研修	オンライン会議システム（Zoom）利用

## 4. 役に立ったこと

### ①ICTの活用

ツール	利 点
LINEグループチャット	職員に即時情報共有ができた。
Zoomクラウドミーティング	朝夕の引継ぎや会議に参加することができた。
クラウド型業務ソフト「福祉見聞録」	利用者の状況や業務について即時情報共有ができた。

### ②コロナウイルス感染症対応訓練、情報共有

## 5. 課題

- ① プライバシーの保護  
(自宅へのパソコン持ち出し、会議等)
- ② 労務管理  
(テレワークに関する規定なし、今回は有給休暇取得)
- ③ 感染確認  
(職員PCR検査費用@11,000円×24名=264,000円施設負担)
- ④ 園長不在時の業務代理体制  
(指導員リーダー3名)
- ⑤ 書類管理  
(押印必要な書類の多さ、決済電子化や押印省略要検討)

# まとめ

- ▶ 新型コロナウイルス感染症への対応は、他の感染症と同様に、今後も継続していく必要がある。標準予防策とともに、クラスターに備え業務継続計画を策定し、実際に訓練を繰り返し実施することにより、実現性の高い計画にすることができる。
- ▶ 組織の中で、どこから感染が始まるかは不明で、管理者であることもある。様々な事態を想定しつつ訓練を重ねることで、各職員の創意工夫を促し、参画することにより計画が自分のものとなり、主体的に動くことができるようになる。
- ▶ 管理者不在の場合の管理体制などの強化、システムづくりが必要である。
- ▶ 日頃より、ICT技術を活用していくことにより、非常時にも業務を助けるツールとなる。書類の取り扱い等も含めて、電子化や効率化が必要である。
- ▶ 感染症に限らず、災害時の対応についても同様に、業務継続計画の策定、訓練、管理体制の構築について備えていくことが重要である。



ご清聴ありがとうございました。